

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	必ず運動プログラム・創作プログラム・社会性プログラムのバランスのとれた行事予定を作成しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・一週間単位であっても、曜日指定の利用者さんであってもバランスよく参加できるように調整しています。 ・利用者さんから聞き取った希望の活動を取り入れたり、その時々が発生している問題に向き合う活動も入れています。 	同じ活動でも、縦割りグループや能力別グループで行うなど、異なる形式も取り入れてそれぞれの利点を活かしていきます。
2	アットホームな雰囲気、利用者さんとの信頼関係づくりを大事にしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・雑談時や余暇時間の中で、個々の好きなことやしんどい思い等を把握し、本人に寄り添っています。 ・誕生日には職員一人一人から心を込めたメッセージをカードに書いてプレゼントしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のよき理解者・相談者であることを大切に、一対一の関わりももっていきます。 ・時には一緒に遊びこんで、楽しさを共有していきます。
3	広範囲の市内複数校と特別支援学校との利用者さんがおられ、多様性があり、個々を尊重しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学校、それぞれの個性から、良いところに着目した関係性作りをしています。 ・特性に応じて、ことば、文字、イラスト、スケジュール板等を使い、説明や流れが理解できるよう工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いに関心を持ち、助けたり、手伝ってもらったり、協力し合い、自分も他人も大事にできる活動を取り入れていきます。 ・一人ひとりの良いところ探しをしています。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者より、職員から共感的に支援されているかとの問いに、迷われた結果がありました。	利用の形態により、お迎え時に十分にお話ができていることが予想されます。また連絡ファイル記載内容が、説明不十分だったかもしれません。	<ul style="list-style-type: none"> ・別途お話を伺う機会を設けて、もっと寄り添っていくよう善処します。 ・対面でお話できない場合、連絡ファイルへの記載で伝わりにくいことはお電話でお話させてもらいます。
2	地域の子どもと活動する機会が少ないです。	複数の学校からの利用があり、地域の一つの児童クラブとの交流は難しい状態です。児童館は、振替休日の利用時、ドライブを兼ねて市外の施設に行っていました。市内の児童館は受け入れ状況やトイレ様式の課題があり、過去に少数で利用していました。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の児童館とも、受け入れ状況やトイレの支援の確認をし、長期休業時の利用を調整していきます。全員での利用が難しい場合は選択制とし、他の活動と組み合わせしていきます。 ・ドライブや外出先の公園で、地域の方や子どもに出会う時は、挨拶や声掛けをしているので継続していきます。
3	きょうだいに参加したり、きょうだい同士が交流する機会を設けられていません。	保護者向け研修会は年一回行っていますが、きょうだい支援について、分からない状況です。	ペアレントトレーニングは今後も発達支援室からの研修の案内等を周知していきます。きょうだい支援は今後取り入れていけるよう、情報収集をしていきます。